令和6年度 東京都立王子総合高等学校 学校経営計画

A スクール・ミッション

社会の変化に主体的に対応し、社会や世界と関わり、生涯に渡って豊かに生きる力の育成を教育目標とし、総合学科の特色を生かした多様な選択科目の設置や体系的なキャリア教育を通じて、グローバルな視野で将来に渡って目標を追究し、その実現に向けて努力を続ける生徒を育成します。

B スクール・ポリシー

- (1) グラデュエーション・ポリシー(育成を目指す資質・能力に関する方針)
 - ① 基本的生活習慣の確立はもとより、ノーチャイム・ノー放送で自己管理能力を身に付けさせます。挨拶、ルール、モラル、マナー、エチケット等の指導を徹底し、規律向上の精神を育てます。
 - ② 社会で生きて働く知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。
 - ③ 主体的な学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。
 - ④ 多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ上げ、表現・発信する力を育成します。
 - ⑤ よりよい社会や人生の実現のために、学んだことを生かしながら多様な人々と協働して新たな 価値を創造していく態度を育成します。
- (2) カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)
 - ① 総合学科高校必履修科目の「産業社会と人間」を設置するとともに、大胆な科目選択制の教育課程を編成しています。
 - ② 主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。
 - ③ 教科・科目を4つの系列(国際・ビジネス系列、芸術・デザイン系列、データサイエンス系列、スポーツ・健康系列)に分類し、それぞれの系列に対応した必履修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた調和のとれた学習活動を実践します。
- (3) アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針「期待する生徒の姿」)

本校は、総合学科高校としての特性を十分に生かしながら多様で幅広く設定した選択科目を生徒が主体的に選択し学習します。また、キャリア教育をはじめとした学習活動全般を通して、将来の進むべき道について真剣に考え、行動できる人材の育成を目指します。自身の可能性を伸ばし将来を切り拓いていこうとする意欲のある生徒の入学を期待しています。とりわけ、下記の特長を有する生徒の入学を求めています。

- 1 学習面において得意な教科があり、一層の伸長を図るとともに、その他の教科についても一生 懸命努力していく生徒
- 2 生徒会活動・委員会活動・部活動・学校行事等で積極的に活動してきた実績があり、本校入学後 もその実績を伸ばそうとする生徒
- 3 中学校において服装や生活態度等のルールやマナーを守り、3年間出席良好である生徒
- 4 地域活動や日本の伝統・文化に興味・関心を持ち、積極的に参加し活動する生徒
- 5 人間性豊かで他の人を思いやる心があり、良好な人間関係を築いていける生徒

C 令和6年度東京都立王子総合高等学校 学校経営戦略に基づき、以下に学校経営計画を策定する。

I 目指す学校

王総ブランド(特色・魅力)をブラッシュアップし、「生徒、教職員、受験生、保護者、地域から愛される学校」をつくる。

- 教職員が協調性と同僚性を保ち、学校経営に参画し、課題解決に取り組み、達成感を得る。
- 生徒が自他ともに高め合い、教職員がそのポテンシャルを引き出し、育み、輝かせる。
- 学校として、生徒、教職員、受験生、保護者、地域を大切に扱い、期待に応える。

(1) 総合学科の存在意義を高めるため、王総ブランド(特色・魅力)をブラッシュアップする。

平成5年2月に第14期中央教育審議会「高等学校教育の改革の推進に関する会議(第4次報告)」において、総合学科が「第三の学科」と提示されてから31年経過するが、その先進的な取組は普通科へと流れ、総合学科としての良さや普通科との違いが不明瞭となり、中学生から選ばれなくなってきた。今一度、総合学科の良さや普通科との差別化を図るとともに、本校の誇るべき王総ブランド(キャリア教育の充実、特別活動の充実、教職員・施設・設備の充実)のブラッシュアップをはかる。

- (2) 3年間をキャリア教育でつなぎ、生徒のポテンシャル(潜在能力)を引出し、育み、輝かせる 授業、行事、部活動、校外活動において、生徒と教職員がともに切磋琢磨し、自ら輝く努力を惜し まない生徒を育成する。総合学科ならではの「キャリア教育×探究」のメソッドでそれを支える。 ノーチャイム・ノー放送を基本に、将来のキャリアをデザインする生徒の主体的な活動を支援する。
- (3) 生徒、教職員、保護者、地域から愛される学校づくり

本校のビジョンは、「生徒、教職員、受験生、保護者、地域から愛される学校をつくること」である。そのためには、教職員と生徒のウェルビーイング(個人が肉体的、精神的、社会的に満たされた状態)を追求する。校長は、教職員が協調性と同僚性を保ち、学校経営に参画し、課題解決に取り組み、達成感を得るような学校経営マネジメントを行う。

Ⅱ 中期的目標と方策

今後、子供が減少していく数年後を見据え、選ばれる学校として残れるよう、学校の新たな創造に向け、パラダイムシフト(社会の価値観、あり方の劇的な変革期)を意識しながら学校経営を行う。Society5.0時代、AI時代に対応した我が国を担う「人財育成」のため、情報活用能力や意思決定能力の育成、リーディングスキルの向上、探究的な見方・考え方を充実させた教育活動を実行する。そのためには、以下の3つの教育実践に組織的に取り組んでいく。

- (1)「東京都教育ビジョン(第5次)」を意識した学校経営を行い、Tokyo スマート・スクール・プロジェクト(学び方・教え方・働き方の三大改革)の実現を目指す。これまでの学校組織の在り方を見直し、「現状維持」という発想を排除し、フレキシブルな観点から教職員の意識改革を図る。
- (2) 学習指導要領に基づいたカリキュラム・マネジメントを実践し、全教職員が一斉授業の知識注 入型教育、「正解主義」「同調圧力」から脱却し、「主体的・対話的で深い学び」「指導と評価の一 体化」を理解した授業・評価を行い、自ら考え、課題解決ができる学力を育成する。
- (3) 教育活動全体を通して、生徒が活動する場面を多く設定することで、知識・理解、暗記力を問う教育ではなく、思考力・判断力・表現力・創造力・洞察力の育成や、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」といったコンピテンシーベースを常に意識した教育活動を行う。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

テーマ 「愛される学校」という大きなビジョンを掲げ、これまでの王総ブランド(特色・魅力)を 堅固にしつつ、新たな課題解決(時間割再構築、募集対策強化、進路実績UP)に向け、 リスク管理を行いながら、アジャイル(走りながら考え)し、寛容の精神をもち、パラダ イムシフト(枠組みの転換)を前向きに捉え、組織が一枚岩となって取り組む。

(1) 教育活動の目標と方策

【学校経営・組織マネジメント】

今年度の取組目標		具 体 的 な 方 策
1 学校組織マネジメ	(1)	現状維持を良しとせず、校務分掌や委員会編成など業務の「シンプル化」
ントを意識した学		「見える化」を図り、全教職員が内容を理解できるようにする。
校経営	2	7名の主幹教諭を核として、組織(チーム)として課題解決に向けた業
		務ができるよう、計画的な人財育成と人財配置を実施する。(人任せの
		分掌業務から、組織的な分掌業務へと移管を図る)。
		教育施策とエビデンス(根拠)に基づいた学校経営・予算編成の推進
	_	自然災害、事件事故のリスク管理、危機管理を周知徹底した組織づくり 生徒と教職員の多様性や心理的安全性に配慮した環境、雰囲気づくり
	3)	生使と教職員の多様性で心理的女主性に配慮した環境、分囲気づくり
3 カリキュラム・マ	1	R(リサーチ:実態把握)を加えた RPDCA サイクルで教育課程を検討する。
ネジメントを意識し	2	総合学科の複雑な時間割のアップデートと再構築を急ピッチで行う。
た教育課程と評価	3	新たな4系列に伴う科目群の見える化とわかりやすいシラバスの作成。
	4	指導と評価の一体化を目指し、各教科はルーブリックと評価規準を作成
		する。教務部はチェック体制、教科は観点別評価の説明責任を果たす。
4 Tokyo スマート・ス	1	現状維持を良しとせず、学び方・教え方・働き方改革となる新たな取組
クール・プロジェク		みを教職員全員が挑戦・考察・全体共有する。
トの実現	2	オンライン授業や遠隔授業のスキルアップ、アップデートに取り組む。
	3	ICT 機器や一人1台端末を効果的に活用するための校内研修の継続
	4	生徒情報をC4thで一元管理した生徒カルテやダッシュボード機能準備
	(5)	Teams をコミュニケーションツールとした授業、家庭学習の工夫と定着
	6	Forms による実態調査や学校評価アンケート集計を安全に活用
	7	校務支援システムや外部人材活用による負担軽減や年休消化の推進
	8	会議、研修、連絡のペーパーレス化、完全電子起案、はんこレス化
	9	TAIMSPC リモート使用による、有効かつ効率的なテレワーク推奨
5 特色化・魅力化を	1	時代のニーズに応える魅力・特色のある新規科目設置や再編成を早期検
意識した教育課程		討、早期決定する。
の編成	2	都立高校の魅力向上に向けた実行プログラムの取組みとして、総合学科
		の活性化を図るため、NPOと連携した1年次「産業社会と人間」の補強
	3	全教科において探究学習、プレゼン発表を取り入れる授業内容の見直し。
	4	文部科学省採択のDXハイスクールとして、データサイエンス系列を強
		化し、情報Ⅱ受講者増や文理融合を取り入れた STEAM (科学・テクノロジー・
		工学・アート・数学) 教育を推進
	(5)	土曜日学習室(補習、受験勉強)の設置と運営について検討・実現
	7	今しかできないボランティアやインターンシップ体験の推進
6 国際交流とグロー	1	都立学校の魅力向上に向けた実行プログラムの取組みとして、国際交
バル人材育成の推		流・海外派遣を推進し、グローバル人材育成を強化する。
進	2	2,3年次において、英語以外にフランス語、スペイン語、ドイツ語、
		中国語、韓国・朝鮮語を選択できる王総グローバルランゲージを実践
	3	オンライン英会話や英検受検を支援し達成感を味わわせる。
	4	海外学校間交流推進校として、姉妹校とのオンライン交流を継続する。
	(5)	グローバルな視野を実体験させるための韓国修学旅行を実施する。
	6	地球環境・平和・地政学リスク、宇宙ビジネス等の興味関心を高める。
	7	改めて日本の良さを理解し、伝統文化・工芸に触れる機会を与える。
	_	

7 人財育成・人財管	① 校内若手教員研修に組織的に取組み、学校全体で育成を図る。
理の徹底	② 主任教諭選考並びに管理職選考受験候補者を意識的に育成する。
	③ 授業力向上に向け、相互の授業観察や授業研究協議会を必須実施する。
	④ 校務分掌はメイン・サブを明確にした OJT 体制とし人財育成を図る
	⑤ 校内研修を充実させ、服務事故防止やマネジメント力等の育成を図る。
	⑥「使命を全うする(R6.4改訂版)」を周知し、教員としての職責を十分に
	理解し、倫理観や規範意識等をより一層高める。

【学習活動】

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策
8 学習指導要領に対	① 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点で「どのように学
応した授業展開	ぶか」を重視し「わかった」「おもしろい」と思える授業にする。
	② 教科等横断的な学び、探究的な学びを取り入れた授業間連携
	③ 教科・単元のルーブリックを提示し、生徒に観点別評価を理解させる。
	④ DXハイスクールとして情報Ⅱの先進的な授業実践と受講生拡大
	⑤ エンジョイ・スポーツプロジェクト校の指定による生徒の多様なニーズ
	に応える運動機会の設定と生活習慣改善プログラムの実施
9 「令和の日本型学校	① 個別最適な学びと協働的な学びのメリハリを取り入れた授業改善
教育」の実現	② ポテンシャル(潜在的能力)を引出し、生徒を主語にした授業改善
	③ 暗記中心、チョーク&トークの生徒が受け身的となる授業形態の見直し
	④ Microsoft Office365 を活用した授業実践、及び全員加入のスタディサ
	プリの課題配信、自学自習など個に応じた学習指導の実施。
10 AI時代に対応し	① リーディングスキルテストの実施とすべての教科において、読解力や論
た学力の育成	理的思考力を育成するための授業内容の再構築
	② すべての教科において、チャレンジ精神、主体性、行動力、洞察力など
	の人間的資産や企画発想力、創造性を育む取組みを取り入れる。
11 読書推進と学校図	① 第四次東京都子供読書活動推進計画の目標である、学校図書室活用を
書室利用促進	全教科で取組み、年間 50 時間以上を目指す。
	② 読書に親しむ機会を、授業で増やし、不読率50%以下を目指す。

【進路指導】

今年度の取組目標	具体的な方策
12 1年次からの組織	① ガイダンス等の丁寧な実施により、生徒の希望する進路実現を図る。
的な進路指導	② 科目選択や模試等を活用し、大学進学希望者への指導の充実を図る。
	③ オープンキャンパスや高大連携によるモチベーション向上を早期に図る。
	④ 語学系、商業系、家庭科系、工業系、情報系など多種多様な資格取得を
	促進し、個に応じた特定分野への意欲や能力を高める。
	⑤ 就職指導はハローワーク、公務員指導は専門学校と連携し、内定・合格
	に導く計画的な進路指導を行う。
	⑥ キャリアカウンセラーを中心にキャリアデザイン部や年次担任等が緊
	密に連携し、進路相談機能の一層の充実を図る。
13 キャリア教育の重視	① NPO団体や学校外の機関の支援等、外部人材を活用し、総合学科高校
	としてのキャリア教育の充実を図る。同時に来年度以降の教員のみの指
	導体制についての検討を始める。
	② 1年産社、2年探究、3年課題研究をストーリーとしてつなぎ、1年O

		Dセミナーや3年課題研究OCA (教員1名が6名を指導) に組織的に
		取り組むことで、キャリア教育全体計画をさらにアップデートする。
	3	個々の生徒が描くキャリアデザインを、職業選択、総合型選抜、公募推
		薦入試等に生かすため教員の校内研修を開催し指導のスキルを高める。
14 大学等で学問を学	1	DXハイスクールとして、データサイエンス系列科目への生徒の興味・
ぶ意欲を支援する		関心を支援するためのアウトソーシングを積極的に取り入れる。
	2	放課後、土日、長期休業中に自習室を開放し、教員や大学生チューター
		を配置し、個別学習指導を行う。
	3	5 教科教員による一般受験対策チームを編成し計画的に指導する。

【生活指導】

【生佔拍导】	
今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策
15 身だしなみや遅刻	① 身だしなみ (服装、頭髪、装飾品等)、遅刻指導は、生徒部主導により
の組織的指導体制	全教職員が共通理解を図り、ひるむことなく同一歩調で指導する。
の確立	② 生徒の実態を常に見える化し、保護者と連携し根気強く指導する。
16 校則の自己点検と	① 校則は現状維持を良しとせず、多様性を受け入れ、時代のニーズに合う
改定への柔軟な対	実用的な校則にしていく必要がある。見直しが必要となれば柔軟に対
応	応する。
	② 自己点検の結果や、生徒、保護者及び地域の方々の意見等を踏まえ、校
	則の見直しを行い、必要に応じて、校長が校則の改定を行う
17 SNSの適切な利	① 望ましい生活習慣を確立する指導の一環として、生徒が意図せずにトラ
用促進に関する指	ブルや犯罪に巻き込まれたり、他者を傷つけたりすることのないよう、
導の徹底	全教職員があらゆる機会をとらえて「SNSルール」の徹底を図る。
	②「とうきょうの情報教育ポータル」の動画や記事をHR等で活用する。
18 いじめ・体罰・性暴	① 日頃の観察に加え、いじめ・体罰・性暴力に関するアンケートを年3回
力の事前防止・早期	実施し監視体制を強化する。定義は生徒・保護者にも周知する。
発見・早期対応の徹	② いじめ・体罰・性暴力の根絶をリーフレットや校内研修で周知徹底する。
底	③ いじめ発覚後は、いじめ防止対策委員会を速やかに開催し、初動対応を
	SCや場合によっては都教委、警察と連携して行う。
	④ 教員による体罰は服務事故、内容によっては犯罪として扱い通報する。
	⑤ 教職員の性暴力は犯罪として都教委と警察に速やかに通報する。
19 命を守る交通安全	① 交通安全ルール、マナーを守らせ、特に自転車通学時のヘルメット、雨
指導の徹底	合羽着用は命を守るための指導として徹底する。
	② 登下校時に問題が起きたときは、保護者、警察、近隣自治体と協力し、
	早期発見、早期対応する。
	③ 交通安全教室や東京都自転車安全学習アプリ「輪トレ」による指導徹底

【特別活動・部活動】

今年度の取組目標	具体的な方策
20 ホームルーム活	① HR、特別活動、部活動を通じて、生徒が自ら課題を見つけ、リーダー
動・生徒会活動・学	を中心に協働的に解決策を考え、常に前向きに取組む姿勢を育成する。
校行事を通した生	② 学校行事において、見通しをもって計画的に準備させることにより、質
徒の主体性の育成	の確保と授業や学業との両立を図る。
	③ 特別活動終了後は、必ずリフレクション (振り返り)を行うとともに、
	Forms によるアンケートを実施し、改善点をまとめ次回に生かす。

④ 今年度中にキャリアパスポートとしての自校作成の書き込み式ノート の試作試行を開始し、来年度からの本格運用の準備を始める。 ① 学校としての「部活動に関する活動方針」や、国や都の運動部・文化部 21 部活動を通した健 活動ガイドラインに基づき、全部活動が週2日以上の完全休養日を設定 全育成 し、短時間で最大限の効果を上げる合理的な活動内容や活動方法等を工 夫することで、休養、余暇の充実、自宅学習の時間を確保する。 ② 勝利至上主義に陥ることなく、生徒の自主性を尊重した部活動の在り方 を意識した指導を実施する。 ③ 部活動費が必要な場合は部ごとの口座で管理し、管理職が通帳や会計報 告等を学期ごとに点検・確認する。 ④ 部活動実施日時や部活動支援員勤務状況を管理職が共有ファイルで事 前に把握し、教職員の負担過重とならぬように、助言・指導を行う。 ⑤ 都立高校の魅力向上に向けた実行プログラムの取組みとして、部活動の 振興を目的とした Sport-Science Promotion Club の指定を受け、デジ タル技術活用を推進する。 ① 体育の授業、体育的行事、部活動の充実により、体力テストの結果を東 22 Tokyo Active Plan for students」を踏 京都の平均を上回るよう向上させる。 まえた体力向上 ② オリンピック・パラリンピックを契機とした生涯スポーツに親しむ姿勢 を継続して育成し、今夏のパリオリンピック開催をともに楽しむ。

【安心・安全な環境作り】

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策
23 心身の健康と安全・	① 地震、火災、水害、台風、テロ、不審者侵入などを想定した避難訓練を
安心を守り抜く	年4回以上実施するとともに、地域と連携した総合防災訓練を行うこと
	で、自助・共助の精神を培う。都主催の防災士の資格取得を奨励する。
	② 薬物乱用、交通安全、闇バイト、デートDVなどの未然防止のため、
	専門家を招いた講演会等を積極的に行う。
	③ 学習障害、発達障害、特別な支援が必要な生徒は対し、ダイバーシティ
	やインクルージョンを意識した合理的配慮を行い、柔軟に対応する。
	④ 問題を抱えている生徒の最新情報を、毎週の企画調整会議で情報交換
	し、会計年度職員を含めた全教職員が把握し適切な対応を行う。スクー
	ルカウンセラーによる校内ワークショップや職員室での情報交換を活
	性化し、見守りが必要な生徒の対処法を全教職員が学ぶ。
24 リスク管理、 危機	① 学校事故のリスク管理と危機管理の重要性を理解し、特に体育活動中の
管理の徹底	事故発生時の緊急対応を周知徹底し、被害を最小限にとどめる。
	② 熱中症ガイドライン遵守、落雷事故防止、感染症防止対策を徹底する。
	③ アレルギーや疾病の生徒情報を共有し、エピペンやAED演習を実施
	④ 教職員は、日頃から生徒にSOSの出し方を教育し、小さなサインも見
	逃さず受け止め、保護者と連携し生徒に寄り添い、組織的に対応する。
	⑤ 児童相談所、警察等と連携し虐待が予想される生徒の安全を確保する。
	⑥ 問題発生時には、校長のリーダーシップのもと、都教育委員会、警察等
	の関係機関との連携を密にし、速やかに全校体制で対応にあたる。
	⑦ 職員室のクリーンデスク、個人情報の施錠管理を徹底する。
	⑧ 校内の安全点検を確実に行い、ケガや事故の未然防止を徹底する。
	⑨ 教職員によるメール、SNSの誤配信、生徒との共有禁止を徹底する。

25 保護者との良好な	1	PTA役員会や保護者会において、対面での情報共有や連携を図り、保
「顔の見える」関係づ		護者が安心して学校教育に参画できる体制や信頼関係を整える。
< 9	2	教職員は、担任、顧問、分掌担当として、ホームページやスタディサプ
		リを活用した保護者向け情報の発信を積極的に行う。
	3	保護者と担任の面談は、3学年は希望進路実現や個別ケースのために全
		員実施、1,2年次は必要性と希望に応じて実施する。
	4	学校評価アンケートは、経年比較による分析結果をホームページに公表
		する。生徒、保護者、教職員、地域の自由意見には速やかに対応する。
26 生徒と教職員に	1	生徒と教職員の多様性や心理的安全性に配慮した環境、雰囲気づくり
とって安心・安全な居	2	保健室、相談室における生徒に寄り添った保健、相談の居場所づくり
場所づくり	3	教職員執務室、休憩室の快適性を高める。アウトリーチ型相談事業活用

【募集・広報活動】

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策
27 組織的な募集活動	① 学校ホームページ以外に、Twitter やインスタグラムといったSNS、
の充実	「だから都立高校」サイトを通じて、本校の特色やイメージを効果的に
	提示し、中学生目線に立って効果のある募集活動を実施する。
	② 戦略的かつ効果的な募集活動を展開し、学校説明会、学校見学会だけで
	なく、新たなエリア開拓、塾訪問、母校訪問などの広報活動を実施する。
	③ 私立高校を意識した学校案内の刷新、東京動画「まなびゅ~」や YouTube
	等の魅力ある動画作成や活用等、イメージ戦略を整える。
	④ 学校説明会や学校案内会の広報活動は、総務・国際部のみならず、全校
	体制として経営企画室職員を含めた全教職員が必ず関わりをもつ。
	⑤ 校長が若手教員とペアで中学校への説明会に率先して出向く。
28 ホームページを中	① HP更新ができる教職員を増やし更新をまめに行い、授業、行事、部活
心とした広報活動	動での生徒の活躍をPRし、見たくなる学校HPを目指す。
	② 説明会のネット予約や部活動体験の予約をわかりやすく円滑に行う。

【外部団体との連携】

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策
29 学校運営連絡協議	① スペシャリストの外部委員による情報や助言を学校運営に生かす。
会の活用	② 要望に応え、近隣大学・小中学校、保護者から愛される学校を目指す。
30 防災教育推進委員	① 警察署、消防署、地域自治会による情報や助言を学校運営に生かす。
会の活用	② 学校として社会貢献を実行し、地域から愛される学校を目指す。

【経営企画室体制】

今年度の取組目標	具体的な方策
31 学校経営への参画	① 学校経営計画に基づき、工夫を凝らした経営企画室運営を行う。
	② 担当業務内容をスキルアップし、課題意識をもって業務改善を図る。
	③ 学校の総合窓口として、思いやりの心と品格ある対応を心がける。
32 適切な予算執行	① 予算の有効活用と一般需用費におけるセンター執行率の向上に取組む。
	② 教員と協働し、中長期的見通しのもと、施設・設備・備品の更新を図る。
	③ 施設管理において委託業者と連携し、適切な運営を図る。
33 個人情報、郵便物	① 生徒、保護者、教職員の個人情報の扱いを慎重に行う。
等の管理徹底	② 郵便物の窓口業務は記録を残し、重要書類の受け渡しを確実に行う。

(2) 重点目標と数値目標

重点目標	具体的な数値目標
A 生徒・保護者満足度	学校評価アンケートとして、生徒の学校満足度(肯定的評価) 85%以上
	保護者の学校満足度(肯定的評価) <u>8 5 %以上</u>
B キャリア教育の充実	① 進路決定率 95%以上
	② 4年制大学進学者数 <u>100名</u>
	③ 日東駒専、成蹊・成城・武蔵・明学、GMARCH、早慶上智理科、国
	公立大学合格者数 <u>25名以上</u>
	④ 大学入学共通テスト出願者60名
	⑤ 各種資格・検定試験合格者数 <u>325名</u>
	⑥ グローバル人材育成 英検2級合格者 <u>30名</u>
C 募集対策の充実	① 校内・校外の学校説明会の参加者 <u>3,200名</u>
	② 応募倍率(推薦選抜) 2.70倍
	(学力選抜) <u>1.60倍</u>
	③ ホームページの1日当たりのアクセス数 <u>1,700回</u>
	④ Twitter、インスタグラム、ホームページの更新回数 合計400回
	⑤ 中学校説明会、「産業社会と人間」出前授業 <u>15回以上</u>
D Tokyo スマートス	① 暗記中心、チョーク&トークのパッシブな授業形態や過去の成功体験か
クールプロジェクト	ら脱却した主体的・対話的で深い学びの授業実践 全教職員による実施
並びに東京都教育	100%
ダッシュボードの実	② 校内 Wi-Fi を活用した I C T による全教職員による授業実践 <u>100%</u>
現	③ 全教職員によるMicrosoft Office365 Teamsの活用実践 <u>100</u> %
	④ 正しくスピーディな電子起案率100%
	⑤ 教育ダッシュボードによる生徒カルテ作成率 <u>100</u> %
E 働き方改革の実現	① 教職員の夏休消化率 <u>100%</u>
	② 教職員の年次有給休暇 1 5 日以上取得率 <u>100%</u>
	③ 各月の残業時間80時間超の教職員数 <u>0名</u>
	④ 部活動ガイドラインを遵守した部活動数 <u>30部/30部中</u>
	⑤ 全教職員のテレワーク取得率 100%